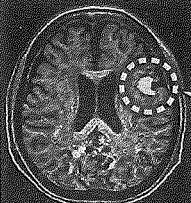


気分障害 認知症前兆か

QSTなど発表 中高年 脳に原因物質

うつ病などの気分障害を
生じた中高年の患者で、
発症の原因とされるたん

うつ病患者らの脳に蓄積



患者の脳内を
捉えた画像

点線の円で
囲った白い
部分に蓄積

※QST提供

ばく質が脳内に多く蓄積
している傾向を確認でき
たと、量子科学技術研究開
発機構（QST）などのチ
ームが発表した。気分障害
が認知症の前兆となる可
能性を示す成果で、早期
発見につながるられるかも
しれないという。論文が9
日、国際医学誌に掲載され
た。

認知症の一つアルツハイ

マー病は、「アミロイドβ」
や「タウ」と呼ばれる異常
なたんぱく質が脳内に徐々
に蓄積することが原因とさ
れる。

チームは、QSTが開発
したタウの有無を詳細に検
出できる陽電子放射断層撮
影（PET）などで、うつ
病や双極性障害と診断され
た40～80歳の患者52人の
脳を調査。その結果、26人
（50・0％）に原因物質が
確認され、重症な患者ほど
多く蓄積していた。一方、
患者ではない47人を調べた
ところ、蓄積が見られた

のは7人（14・9％）だっ
た。

チームの黒瀬心・QST
研究員は「うつ病患者らの
診断は問診が中心で、認知
症の前段階であることを見
抜くのが難しかった。早期
の発見、治療につながるよ
う研究を進めたい」と話す。

新井哲明・筑波大教授
（精神医学）の話「気分障
害の患者に認知症の前段階
の人が相当数いることを確
認できたのは意義深い。中
高年でうつ病などを発症し
たら、認知症も念頭に検査
を受けるべきだ」